

# 鴨 台 社 事 通 信

## ポスト・コロナ社会に向けた学会大会

新型コロナウイルス（COVID-19）の世界的な蔓延は、わが国でも全国的に急拡大した第5波の減少傾向にあっても、未だ第6波の到来が危惧されております。

わが社会福祉学研究室が開室した100年前にもスペイン風邪の蔓延に苛まれ、東日本大震災の発災から10年の節目を迎えました。こうした感染症の蔓延や自然災害の発災などによる困窮状態からの克服過程を経てきた歴史的・社会的な社会福祉実践は、被災生活と闘う人びとと共に歩んだ歴史でした。今、私たちは、新たな災禍と向き合う防災（減災）活動に取り組み、幾多な福祉課題に立ち向かう時でもあります。しかし、引き続き「3密」を留意するような行動の抑制が求められています。

そこで今年度の第45回大会では昨年度に続く第2弾とした、ソーシャルワーク実践や教育・研究活動などの取り組みを共有し合い、私たちが求めている社会共生に向けた持続可能な地域づくりのための福祉課題を共に考える機会にしたいと思っております。そのために対人支援の可視化を考える「ポスト・コロナの地域を見据える社会福祉実践とICT活用」を統一テーマとし、首都東京の西巣鴨からは遠い同窓の会員も参加できるようなオンライン大会を開催します。是非とも奮って参加くださるようご案内いたします。

大正大学社会福祉学会 会長 石川 到覚

## 大正大学社会福祉学会 第45回大会のご案内

◎日程：2022(令和4)年2月27日(日)14時～17時（オンライン開催）

◎大会テーマ「ポスト・コロナの地域を見据えるソーシャルワーク実践とICT活用」

○ 基調講演「コロナ禍における中国のソーシャルワークを踏まえた実習教育」

郭 娟先生（華東師範大学社会発展学院 社会福祉専攻修士課程教育センター副主任）

○ シンポジウム「卒業会員によるICT実践報告」

\*コーディネーター：新保 祐光教授（社会福祉実習指導室長）

\*シンポジスト：西岡 修氏（重田ゼミ、高齢領域；白十字ホーム）

\* 同 富松 奈央氏（沖倉ゼミ、障害領域；八王子平和の家）

\* 同 神田 知正氏（坂本ゼミ、精神領域；井之頭病院）

\*指 定 発 言 者：実習指導講師、実習指導職員等

○ 総会・情報交換会

参加方法：オンライン大会に参加される方は、本通信「奥付」大正大学社会福祉学研究室ホームページのQRコードから閲覧のうえ、事務局Eメール宛 **2022年1月28日(金)**までにご返信ください。大会1週間前には「オンライン招待メール」をお送りします。

## 社会福祉学科の動向

2021 年度より社会福祉学科では、国家試験希望者の全員合格を目指す「クオリフィケーションプログラム」を開始しています。このプログラムは4年間を通して行われ、正課科目の「社会福祉特講」、長期休暇中の「受験対策特別講座」、学修アプリ等による「個別学習支援」の三本柱により構成されています。学生は国家試験合格を目指すと同時に、講義・演習・実習を通して、頭も心も体も鍛えられます。

さらに2021年度入学生より、15年ぶりに改訂された社会福祉士・精神保健福祉士養成カリキュラムが始まり、その新カリキュラムでは、「地域共生社会の実現を推進し、新たな福祉ニーズに対応するため、ソーシャルワーク専門職として実践能力」が期待されています。そのために学部教育カリキュラムを充実させるとともに、新たな人材養成ニーズに応える大学院教育とのつながりも、より重要になっています。大正大学の伝統を生かして次年度に向けた取り組みが進行中です。

社会共生学部社会福祉学科長 神山 裕美

## 大正大学社会福祉学会の動向

第45回大会ではコロナ後を見据え、ソーシャルワーク実践において如何にICTを活用していくのかを、参加者の皆さんとともに考えていきます。これまで教育・研究交流を深めております上海・華東師範大学のICT教育に学びつつ、本学の実習施設で活躍される卒業生会員3名より、コロナ禍における実践的な取り組みをお聞きします。昨年度に引き続きオンラインで開催いたしますので、情報交換会も含めて是非ご参加ください。

本学会では在学中に優秀な成果を上げた学部生・院生会員に学会賞や学修支援の奨励賞を授与してきました。また、学部生によるオレンジリボン運動の支援とともに、昨年度からソーシャルワーク実習への支援も始めました。さらに来る2027年には学会設立90周年を迎えます。本研究室における研究－実践－教育の好循環を生み出すハブ役割を本学会が果たすべく、学会員の皆さんとともに今後より一層、学会活動を推進していきたいと考えています。

大正大学社会福祉学会第45回大会長 沖倉 智美

## 『鴨台社会福祉学論集』の刊行

本学会機関誌の通称『鴨台論集』は、2005(平成17)年度から査読システムの導入を始めて2021(令和3)年度から編集及び査読の諸規程を改定し、より質の高い学術誌になるよう努めることが本学会・評議員会で確認されました。そこで第30号の刊行からは、本学大学院を修了された教育・研究職に就いている会員に編集及び査読委員を委嘱し、機関誌の編集方針や査読システム・フローチャートに基づく体制強化を図っております。

さらに大正大学『学術誌』のデジタル化に伴い、鴨台論集が「大正大学機関誌リポジトリ(<https://tais.repo.nii.ac.jp/>)」として掲載・閲覧できるようになりました。機関誌の鴨台論集を通じた会員同士の交流や研鑽とともに、実践と研究の好循環を促進する働きができれば幸いです。是非とも会員の実践報告や研究論文の積極的な投稿を切に期待しております。

『鴨台社会福祉学論集』編集委員長 坂本 智代枝

大正大学社会福祉学研究室  
ホームページ・QRコード：  
<http://ohdai-sw.com/index.html>



## 大正大学社会福祉学会事務局

〒170-8470 東京都豊島区西巢鴨 3-20-1  
大正大学 社会福祉学科事務室内

TEL 03-3918-7311〔内線 5770〕

FAX 03-5394-3057

MAIL [info@tais-shafuku.sakura.ne.jp](mailto:info@tais-shafuku.sakura.ne.jp)

事務局長：熊澤 利和 事務助手：赤坂 真樹



学会マスコット

ぶくまる